

強者の戦略

【2・3世紀を埋められたかどうかです】

おはようございます、こんにちは、こんばんは。最近では冷やした生姜紅茶を持ち歩いている北林でございます。先週もいいましたが、暑いです。いや、「暑い」のほうがいい感じの気候ですね。本当に体には気をつけて日々戦ってください。でも冷たい物ばかり飲んで体を冷やしすぎないでくださいね。

暑いですが、頭を働かせてください。苦しいときこそ上り坂。夏の努力はきっと秋の実りになります。今はあえてひたすら覚えなれないといけないことなど、「しんどいこと」をやってください。

では解説です。

《解説》

問題には「紀元1世紀後半から4世紀」とあるので、指定語句などからわかるものを推測すると、

1世紀：後半からですから、イエスに言及する必要はありません。弟子達(使徒)によってキリスト教が広まっていくことや、64年のネロの迫害が思い浮かぶことかと思えます。キリスト教は以後迫害の中、奴隷や女性、下層民など社会的弱者を中心に帝国全土に広がっていきます。(はじめは“女と奴隷の宗教”なんていわれてたんですね)。

2世紀：？

3世紀：？

4世紀：303年 ディオクレティアヌスの大迫害

皇帝崇拝を拒否したキリスト教徒への大迫害です。

しかし信者は減りませんでした。社会の上層民にも広がりを見せています。

313年 コンスタンティヌスがミラノ勅令で公認

325年 ニケーア公会議でアタナシウス派を正統、アリウス派を異端とする

392年 テオドシウスのときに国教化

以上のようなことが思い浮かぶと思われまます。

しかしこれだけだと、1世紀と4世紀の出来事で終わってしまいます。「1世紀後半から4世紀末」とあるので、1世紀・2世紀・3世紀・4世紀とそれぞれの世紀についても構想の段階で考えないといけません。どうしても1世紀と4世紀に情報が集中してしまうんですけどね。

では何を入れればいいのか、ということなんですが…教科書などには記載があります。

2世紀・3世紀に関する事柄では、『新約聖書』の編纂(2世紀～4世紀)や、軍人皇帝時代に迫害が続いていたがカタコンベなどに隠れて信仰を続けて信者を拡大していたことなどをあげることができます。

さあ、これらに気づいたでしょうか。キリスト教に関する問題は多いですが、つい2世紀・3世紀は見落としがちになります。教科書の熟読はかせませません。

また、長い期間を問われたときに、各世紀に何があったか(また何が前の世紀から継続しているか)、教科書に情報がある場合には、それらにもしっかり対処できなくてはなりません。

強者の戦略

《解答例》

1世紀から使徒らにより伝道が始まり、ネロ帝以後迫害があったが、カタコンベなどで耐えながらも教えは社会的弱者を中心に広まった。2世紀以降新約聖書が編集され、3世紀の軍人皇帝時代の迫害も教会組織を固めつつ耐え、次第に上層民にも信徒が増えた。4世紀初めディオクレティアヌス帝の大迫害の後、コンスタンティヌス帝はミラノ勅令で公認、ニケーア公会議で三位一体説のアタナシウス派を正統とし、テオドシウス帝は国教とした。

(200字)